

平成24年度9月定例記者会見 会見録

日時 平成24年9月28日（金）午後2時40分～3時10分

場所 市役所2階 第1特別会議室

（市長）

それでは、私からお話しをさせていただきます。

はじめに、本日、閉会いたしました9月定例会について、ご報告させていただきます。9月定例会につきましては、去る8月27日に招集させていただき、以来、33日間のご審議をいただきまして、全ての案件につきまして、ご議決をいただきました。議員からの質疑でございますが、いじめ問題、防災対策、基地問題や地域活性化対策など、多岐にわたるご質問がございました。これらについては、様々な施策に活かしていきたいと思っております。

次に、市役所本庁舎ロビーのリニューアルについてご報告させていただきます。本庁舎の1階のロビーをリニューアルすることにつきましては、本年6月11日に発表をさせていただいたところでございます。10月2日からご覧いただけることになりましたのでお知らせいたします。このたびのリニューアルにつきましては、市役所にお越しいただきます多くの方に、相模原の未来を感じていただくような内容に改めました。特に、小学生の市役所見学などで、年間1万人近くの児童の皆さんにお越しいただいております。従来からロビーにありましたジオラマをリニューアルさせていただきましたが、特に力点を置いたのが、相模原の将来、平成39年頃までの相模原を想定し、リニア中央新幹線が開業するまでをイメージしたジオラマといたしました。また、携帯情報端末機のタッチパネルと大型モニターを連動させ、本市の歴史や魅力を紹介する映像により、見る、聞く、触るなど五感を通して感じる内容にさせていただきました。10月2日には、社会科見学といたしまして、本市の緑区の串川小学校の児童の皆さんが市役所にお越しになる予定でございますので、その時にお披露目をしたいと思っておりますので、記者の皆様方におかれましては、お時間が許す限り、取材をお願いできればと思っております。

次に10月1日に施行いたします相模原市路上喫煙の防止に関する条例についてご説明いたします。この条例につきましては、市民の皆様の安全・安心、生活環境の向上に資することを目的といたしまして、本年3月に制定いたしましたわけでございます。この条例では、市内全域で路上喫煙をしないように努めていただくとともに、市内のすべての鉄道駅周辺のほか、子どもへの影響を考慮いたしまして、市内のすべての駅から半径500メートル以内の保育所、幼稚園、小学校及び、中学校の外周道路を路上喫煙禁止地区と指定いたしまして、路上における喫煙を禁止いたします。禁止地区のうち、特に主要ターミナルの橋本、相模原、相模大野の3駅周辺を路上喫煙重点禁止地区といたしました。違反者には来年4月1日から過料を適用し

ていくという厳しい内容になっているわけでございます。これらの実効性を高めるため、重点禁止地区では、路上喫煙防止指導員を巡回させまして、路上喫煙をしている人をなくすよう指導していく予定でございます。この条例の周知、啓発を目的といたしまして、10月1日から3日間、重点禁止地区の3駅でキャンペーンを実施いたします。これらにつきましても、お時間がありましたら、取材をお願いいたします。

次に、配偶者暴力相談支援センターの開設についてでございます。本市では、配偶者等からの暴力による被害者の保護、そして、被害者の自立支援のため、いわゆるDV防止法に基づきまして「相模原市配偶者暴力相談支援センター」を10月2日に開設いたします。新たに専用の電話を設置いたしまして、DVに関する相談のほか、問題解決に向けました各種制度等の情報提供やアドバイス、関係機関等の紹介をいたしたいと思っております。

次に、10月1日に設置いたします新しい組織についてでございます。本市では、10月1日、発達障害者支援法に基づきまして、中央区陽光台にございます陽光園内に「発達障害支援センター」を開設いたします。このセンターには、発達障害のある人と家族への支援や発達障害の理解を促進するための専管組織といたしまして、合計7名の常勤職員を配置する予定でございます。

最後になりますが、被災地への職員派遣についてでございます。友好都市であります大船渡市には、これまで延べ256名の職員を派遣してまいりましたが、被災者の健康相談、訪問調査等を行う保健師が不足しているという現状がございますので、新たに10月1日より6か月間、大船渡市に保健師を1名派遣することといたしました。ご案内のとおり、現在、大船渡市などの被災地に、復興計画に携わる職員や生活保護のケースワーカーなど合計で8名の職員を長期派遣しておりますが、このたびの派遣は、保健師では初めての長期派遣になるものでございます。大船渡市の復興のためにお役に立てるよう活躍を期待しているところでございます。

私からは以上でございます。

(記者)

ロビーのリニューアルについて、説明の中では五感を通して感じてもらうとありましたが、もう少しわかりやすく説明をお願いします。

(市長)

昨今、ITなどの機器は発達しておりますが、特に若い人たちはそのような機器を使いこなしていらっしゃる。見る、聞く、触るということですが、携帯情報端末などにより、ジオラマや大型モニターを操作していただく、そのような仕掛けを作りましたので、お子さんなどにご理解していただきやすくなったのではと思っております。今までのジオラマは、市全体を俯瞰的に表したものでしたが、多くの方は、すでに場所など十分に分かっていると思いますので、将来、相模原市が目指している街を、五感を通して感じていただけるよう工夫させていただきました。

また、味につきましてはロビーでのお話しではございませんが、市役所の6階の食堂で、相模原の季節の恵みと街の魅力を表現した「潤水都市ランチ」を食べられるようになっております。

(記者)

「潤水都市ランチ」は、メニューを充実させるということでしょうか。

(渉外部長)

潤水都市ランチにつきましては、既にご案内しておりますが、それを継続的に実施していく予定でございます。

(記者)

10月1日からの路上喫煙防止条例についてですが、県内の他都市と比べると遅いという印象がありますが、いかがですか。

(市長)

相模原市には、従来からポイ捨て禁止条例があり、一部の地区で歩きタバコなどの禁止をしてまいりました。このたびの重点禁止地区がそうです。今回の条例の趣旨は、路上喫煙防止を全市的に実施していこうということが大きなねらいでございます。「遅くなったのでは」とのことですが、この件につきましては、私の選挙公約でもございましたので、なるべく早く実施したかったのですが、この時期になってしまいました。ご理解をいただきたいと思っております。

(記者)

遅くなったということで、他の都市と比べ何か特徴がありますか。

(市長)

特徴の一つといたしまして過料を課すということがあります。また、重点禁止地区につきましては、喫煙者に「取り締まります」、「絶対吸ってはいけません」と指導するだけでなく、喫煙できるコーナーを作りました。タバコの嫌いな人への配慮も必要だと思っております。また、安全対策、景観上の問題もございますので、どうしても喫煙したい方はそこをお願いしたいと思っております。いずれにいたしましても、こういう施策を全市的に実施いたしまして、相模原から受動喫煙の環境を排除したい、市民の皆様にもご理解いただきたいと思っております。

(記者)

昨日、県から、緊急財政対策案について発表がありました。この中で、相模原市内では、津久井の馬術場を廃止するということが言及されていましたが、市長はどのように考えますか。

(市長)

神奈川県は、前々から非常に厳しいというお話しがありました。このよう

な中、このたび具体的な対応策が示されました。前回、県有施設を全廃するという方向性でしたが、今回はかなり精査され、廃止は9か所と聞いております。相模原市内では、お話しのとおり津久井馬術場が対象となっております。現時点では、県から正式な説明がありませんのでよくわかりませんが、市民生活に何らかの影響があるということになりましたら、県と私たちとで協議をしなければならないと思っています。いずれにしましても、県の政策の中で、県民サービスとして必要性がありこれまで運営してきたものを、今後、廃止をするということです。県として政策転換をするのですから、県民にしっかり説明をしていただき、その上で実施していただきたいと思っております。

(記者)

施設を市が引き取り、運営することもありますか。

(市長)

そんな単純な話しではないと思います。広域行政の中で必要性があり運営してきたのですから、県の財政が悪くなり運営できなくなったというだけで、すべて基礎自治体に任せるということになると、「県はいらない」ということになると思います。県の財政の問題ですし、県の組織のあり方などの見直しも早くしていただきたいと思います。

(記者)

市の考え方を県に伝えるという機会はありますか。

(市長)

市長会などがありますが、今回の話しは、県が政策として実施してきたものをやめるということですので、基本的には、基礎自治体に直接関係ないことだと思います。今、お話しがありました。基礎自治体で運営してほしいということでしたら、正式に話しをいただいた上で、私たちが提供する市民サービスとして必要性や財源などいろいろ検証したいと思います。ただ、いろいろ問題はあると思います。

(記者)

中国との交流の件についてお聞きします。相模原市は無錫市と交流をしておりますが、このたび、医師会が交流を中止し、市でも、11月に交流を予定されていると聞いていますが、この交流をどのようにされますか。

(市長)

今の段階では非常に難しいです。無錫市は世界各国の約40の友好都市と、毎年、文化フォーラムという交流会を実施しており、私たちもこれまで参加させていただいております。私も過去に出席いたしました。毎年のことですし、今年も11月にあると伺っておりますので、私も2年ぶりに出席するものと思っておりましたが、こういう状況になりましたので、出席したくても出席できないのかなという気持ち

です。

本市と無錫市との友好都市関係は27年だったと思います。無錫市とは非常に友好的に交流させていただいております。私がフォーラムに出席した2年前にも中国の漁船と海上保安庁の巡視船がぶつかった事件がありました。その時も中国の各地で暴動が起きておりましたが、無錫市ではそのようなことがまったくなく、歓迎していただきました。しかし、今回は、国益や主権の問題、両国間の長年の懸案事項が表面化された問題で、さらに国民が参加しています。私たちだけではなく、全国で中国との公式行事を取りやめるようなお話しもあります。中国との国交40周年も事業をとりやめるとい話もありますので、私たちの公式事業も今の段階では難しいと思っており、とりやめという形にしたいと思っておりますが、現在は、最終的な調整をしており、慎重に考えております。

(記者)

行事は実施するけど、市長ご自身の訪問はないというケースもありえるということでしょうか。

(市長)

無錫市と最終的な調整をしておりますませんが、無錫市がフォーラム自体を開催するかどうかを含めてだと思えます。本市に招待状がくるかどうかはわかりません。現時点では、まだ到着していないとのことですが、今の流れでは、私が無錫市に行き、交流事業に出席するというのは難しいと思っております。

(記者)

難しい状況があるという判断は、どのあたりでされているのでしょうか。国と国の外交上の問題でギクシャクしてはいても、市民レベルの交流といいますか、こういう時だからこそ、交流を続けた方が良いという考えもありますが。

(市長)

そういう見解もあると思えますし、私もいいことだと思えます。しかし、今回の件については、全般的に考えて、いろんな方がご心配されますから難しいと思えます。今回、中国に行って事件や事故に巻き込まれたり、公式行事に何らかの障害が発生したり、そういう危険性があるのではと思っております。私たちは、今、日本にいますのであまり感じないかもしれませんが、現地では建物を壊されたり、日本大使館ではあれだけの大掛かりな警備をしたりしなければなりません。まして、地方政府との交流という中で、しっかり守っていただけるとい保障を取り付けることができませんから、総合的に考えて、そのようリスクを負ってまで、私たちが日中の架け橋という役割を果たすべきところまでは踏み込める状況にないと思えます。

渉外部長、今回の公式行事をやめましょうというような話しが無錫市からはきていませんか。

(渉外部長)

今のところ、中止するという正式な話しはきておりません。

(市長)

個人的には、行きたいという気持ちもあります。

(記者)

では、誰が慎重になっているのでしょうか。

(市長)

誰というより、常識的なお話しとしてです。前回の問題の時には、中国との交流事業の多くがそのまま実施されたようですが、今回はかなり取りやめになっています。国の国交正常化40周年事業についても、中国側が日本の責任だということで、実施しないという話しになっていると聞いています。相手がある話しですから、こちらだけで実施するということはできません。私も聞いたお話しですが、中国では国家から地方政府に様々な指示があるとのこと。今回、病院協会の交流事業がとりやめになった件についても、協会が中国の病院を視察する予定だったのですが、病院が表立った歓迎ができないという話もあったと聞いております。このような中、私たちが正面から、交流、友好というわけにはいかないと思います。

(記者)

津久井馬術場が廃止という方向になりましたが、地元自治体としてどのように受けとめますか。乗馬を楽しんでいた方もいらっしゃると思いますが。

(市長)

私自身行ったことがなく、詳細がはっきりしておりませんが、馬術場は、たしか神奈川国体の馬術競技のために津久井町が対応され、その後の利用として今日に至ったと聞いております。現在では、地域振興施設、生涯スポーツ振興施設として、馬術大会、体験乗馬会、障害者向けの乗馬会、地域の消防訓練などで活用されていると聞いています。地域の防災活動などで市民サービスに支障をきたすということでしたら、市民の問題ですから地域の中でどうすべきかを検討しなければなりませんし、障害者支援の中で同様のことがあるのなら障害者支援施策の中でしっかり考えていきたいと思えます。

企画部長、市に対して、社団法人神奈川県馬術協会などの団体から、何とかしてほしい、県が廃止するので市で運営していただきたいという話しはきていますか。

(企画部長)

まだ、きておりません。

(記者)

そういう意味においては、相模原市にも様々な影響がないともいえないというこ

とでしょうか。残念ですね。

(市長)

残念ではありますが、かなり広い土地や施設です。国体を実施するような大きな施設を地域で利用するという、これまでの管理運営に何らかの不備があったのではと思います。国体終了後、これまで時間があったのですから、時代にあった対応に変えていくという工夫が必要だったのではと思います。

企画部長、民間移譲などで活用はできないのでしょうか。

(企画部長)

ここは廃止を検討する施設であり、移譲を検討する施設ではないと伺っています。

(市長)

民間の乗馬クラブなど、民間に払い下げすることも含め、神奈川県は検討すればよいと思います。